

2023年度

科目名称	幼児理解の理論と方法
授業コード	AI159
英語名称	Theory and Method of Infant comprehension
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	小湊 真衣 (教育人間科学部)
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	子どもと関わりその成長を支援するためには、対象である子どもを理解することが必要不可欠である。本科目では、子どもを理解する上で必要となる基本的な理論と、それを踏まえた上で子どもの成長を支えるための具体的な方法について、実習を交えながら知識および技術を習得することを目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士および園のスーパーバイザーとしての現場での実務経験を活かして授業を行う。
到達目標	本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「5. 教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」および「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」の習得のため、また、こども学科がカリキュラムポリシーに掲げる「教育者・保育者及び社会人としての幅広い教養を身につけ、さらに、教職または保育職の専門的知識や技能を養う」ために、幼児を理解するために必要とされる専門的知識や技能の学修を通し、子どもの生きる力を育むことのできる人材を育成することを目指す。
計画・内容	<p>第1回：オリエンテーション・幼児理解のための視点 （予習）シラバスの内容に目を通し、授業の目標を理解する （復習）幼児理解のための視点について整理しまとめる</p> <p>第2回：幼児の発達を理解するための方法（発達検査の実施法） （予習）発達検査の種類について調べる （復習）発達検査の実施法とその注意点をまとめる</p> <p>第3回：幼児の発達を理解するための方法（発達検査の活用法） （予習）発達検査の活用法について調べる （復習）発達検査を活用する際の注意点をまとめる</p> <p>第4回：幼児の発達を理解するための方法（知能検査の実施法） （予習）知能検査の種類について調べる （復習）知能検査の実施法と採点方について復習する</p> <p>第5回：幼児の発達を理解するための方法（知能検査の活用法） （予習）知能検査の活用法について調べる （復習）知能検査を活用する際の注意点についてまとめる</p> <p>第6回：乳児期の子どもの理解 （予習）乳児期の子どもの好奇心や興味のある方について調べる （復習）乳児期の子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p> <p>第7回：1歳までの子どもの理解 （予習）1歳までの子どもの好奇心や興味のある方について調べる （復習）1歳までの子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p> <p>第8回：2歳までの子どもの理解 （予習）2歳までの子どもの好奇心や興味のある方について調べる （復習）2歳までの子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p> <p>第9回：3歳までの子どもの理解 （予習）3歳までの子どもの好奇心や興味のある方について調べる （復習）3歳までの子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p> <p>第10回：4歳までの子どもの理解 （予習）4歳までの子どもの好奇心や興味のある方について調べる （復習）4歳までの子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p>

2023年度

計画・内容	<p>第11回：5歳までの子どもの理解 （予習）5歳までの子どもの好奇心や興味のあり方について調べる （復習）5歳までの子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p> <p>第12回：未就学児の子どもの理解 （予習）未就学児の子どもの好奇心や興味のあり方について調べる （復習）未就学児の子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p> <p>第13回：特別な支援を要する子どもの理解 （予習）特別な支援を要する子どもの好奇心や興味のあり方について調べる （復習）特別な支援を要する子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p> <p>第14回：特別な配慮を要する子どもの理解 （予習）特別な配慮を要する子どもの好奇心や興味のあり方について調べる （復習）特別な配慮を要する子どもの好奇心や興味を育む関わり方についてまとめる</p> <p>第15回：幼児理解の理論と方法 （予習）幼児理解の意義と理論についてまとめる （復習）これまでの学びを振り返り、今後の課題をまとめる</p>
授業の進め方	授業の前半は講義形式で進め、後半は個人ワークやグループワーク、プレゼンテーションを組み合わせる授業を進める。
能動的な学びの実施	教員と学生、もしくは学生同士の意見交換を積極的に行うことにより、学生一人ひとりが積極的かつ主体的に、本科目に関する学びを深め、気づきを得ることを期待する。
授業時間外の学修	<p>授業時間外学習（合計60時間程度） （予習）「計画・内容」に記載した内容に加え、各回のテーマに関連する文献等を検索し、それらに目を通し、必要に応じて切り抜きやコピーをとっておく。 （復習）「計画・内容」に記載した内容に加え、授業で配布した資料や板書の内容およびグループワークの内容を振り返り、自学自習する。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：特に指定しない。適宜プリントを配布する。 参考書：『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』</p>
成績評価方法と基準	授業毎に課す小レポートもしくは課題の内容（60%）および学期末試験の結果(40%)で評価を行う。なお、初回を除き3分の2以上の出席が確認できない場合、単位は認定しない。
課題等に対するフィードバック	授業毎に課す小レポート・課題へのフィードバックは、該当回以降の授業内にて行う。授業内容に関する質問や感想に関しては授業内で適宜シェアをした上で回答・解説を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	授業中の私語など周りの受講生の迷惑となる行為、および課題の代筆や代返を発見した場合は、最終評価から大幅に減点する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>動画・資料を使用した講義と個人ワークを組み合わせつつ授業を進める。 授業毎に課す小レポート・課題の評価（60%）および学期末試験の結果(40%)で評価を行う。なお、初回を除き3分の2以上の出席が確認できない場合、単位は認定しない。</p>